

カルメル

靈性センターニュース

2023年11月 402号

購読者の方々へのお知らせ

+主の平和

『カルメル霊性センターニュース』を常日頃からご愛読・ご利用頂きありがとうございます。

月刊誌として毎月発行してきた冊子でございますが、今年度を以て紙面としては終了する事となりました。

はじめは故奥村神父様が創められた数枚の発行物が頁数を増やし、400号にも亘り続けられました事、皆様のご協力、御献身に心より感謝申し上げます。

昨年度よりホームページへの掲載を始め、紙面からWebへの移行を進めて参りましたが、今年12月号を以て、紙媒体での発行を終了とさせていただきます。

皆様へは急なお知らせとなってしまいました事、深くお詫び致します。

『カルメル霊性センターニュース』は今後、Webでどなたでもご覧になれるものとして、これからもご愛用頂ければと思います。
宇治カルメル会のホームページにて、過去のバックナンバーも含めて掲載されておりますので、是非ご利用下さい。

宇治カルメル会修道院ホームページ
<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

心より感謝と祈りのうちに

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
カルメル会宇治修道院 「霊性センターニュース事務局」

Tel:0774-32-7456

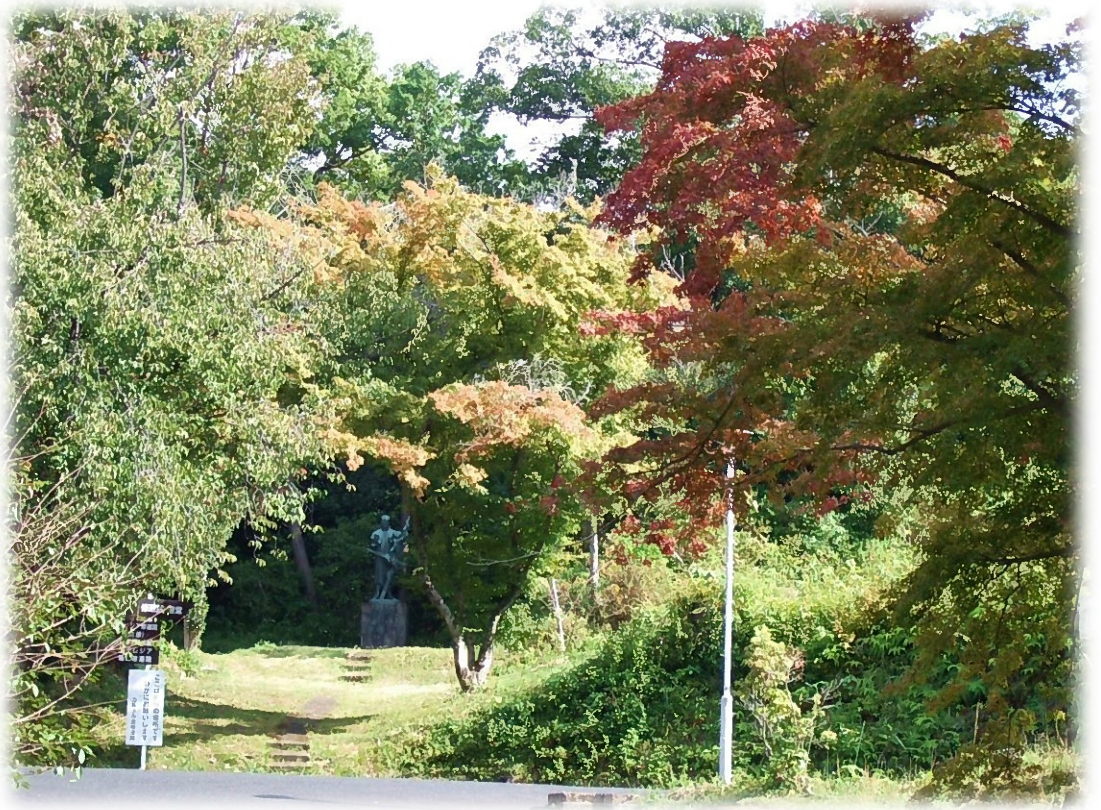
Fax:0774-32-7457

reisei@carmel-monastery.jp

目次

カルメル聖性センターニュースWeb移行へのお知らせ	・・・ 1
目次	・・・ 2
心の泉	・・・ 3
カルメル会の企画案内	・・・ 25
東京	・・・ 26
名古屋	・・・ 27
京都	・・・ 28
キリスト教放送局F E B Cのご案内	・・・ 32
諸所の企画案内	・・・ 33
通信深読お申込みのご案内	・・・ 38
霊性センターニュース郵送終了のお知らせ	・・・ 39

心の泉



宇治カルメル会修道院



第三卷

第五十八章 深遠な奥義や、はかり知れない神のみ旨を、

みだりに探ってはならない

1 主

《子よ、その深遠さにおいて神の知恵に属するみ旨について、議論することを避けなさい。なぜこの人はこれほど神の恵みから見捨てられているのか、なぜあの人はこれほど恵まれているのか、この人はなぜこれほどの苦しみを受け、あの人はなぜあれほど重んじられているのか、などと詮索してはならない。これらはすべて、人間の理解を超えるものである。神のみ旨を探るには、どんな知識も議論もおよばない。

だから、敵である悪魔が、そうしたことをあなたにほのめかし、あるいは、者好きな人から尋ねられたなら、預言者の言葉をかりてこう答えなさい、「主よ、あなたは正義であり、あなたの判断は正しい」(詩編 119・137)と、そしてまた、「神の裁きは真実で、すべて正しい」(詩編 19・10)と。私の裁きは、論ずべきものではなく、おそれるべきものである。それは、人の知恵がおよばないところだからである(ロマ 11・33 参照)。

2 むだな議論

また、聖人の功德についても、どの聖人のほうがすぐれているか、神の国においてどの聖人がいっそう高いかなどと、探るべきでもなく議論するべきものでもない。こういう議論はけんかや無用な論争を引き起こし、高慢と虚栄心とをうながし、ここからねたみと不和が生じる。ある人が高慢にもこの聖人の高さを支持すれば、ある人はほかの聖人をたたえるようになる。このようなことを知ろう、探ろうとするのは何の効果もなりばかりか、かえって聖人たちを遠ざけてしまうのである。「私は不和の神でなく、平和の神である」(一コリント 14・33)。この平和は、自分の意見に固執することにはではなく、まことの謙遜にあるからである。

「わたしたちを愛に導くのは信頼であり、信頼以外の何ものでもありません」

テレーズ

テレーズにとって、大切なのは神の働きかけ、恵みであって、個人の功績ではありませんでした。物事を聖化するかたは主だからです。それで、「最もふさわしい態度は、心の信頼を自分自身の外、すなわち、わたしたちを際限なく愛され、イエスの十字架においてすべてを与えられた神の無限のいつくしみの中に置くことです。」 教皇フランシスコ



強くなりたいと望んでいた一修練女へ

「もしあなたが子供のように弱く無力なものであることを神さまが望まれるなら、功德が少ないと思いますか。一步ごとにつまずき、転び、自分の十字架を弱々しく担うことを承諾し、自分の無力をお愛しなさい。神の恵みによって、自己満足を満喫させるような英雄的行為を果たすより、その方がずっといいのです。(列福調査供述)



自然界では一番ささやかな雛菊さえ定められた時には花を開くことができるように四季が配置されています。同じようにすべては一人ひとりのためによりよいように神さまは取り計らってくださいます。

テレーズ

一人ひとりのためにすべてを備えられる神への信頼を深めたい。自分では理解できない出来事の背後にも、父である神の慈しみの愛を信頼して。自然界では美しく薫り高い花を咲かせるために、厳しさも時として必要とされる。いのちの強さが備わってゆくために、日々の労苦をそのような厳しさとして受け入れられますように。



*いのちの道 写真と文 伊従信子 サンパウロ

わたしたちの人生はしばしば「恐れや、人間的な安泰への願望、すべてをコントロール下に置く必要」に押しつぶされている。テレーズが勧める神における信頼と委託は、「わたしたちを強迫観念的な計算、未来の不安、平和を乱す心配からわたしたちを解放してくれる。(…)もし、わたしたちを際限なく愛してくださる御父の御手の中にいるならば、あらゆる状況に見舞われても、どんなことが起きても、進んで行けることは確かである。」 教皇フランシスコ

伊従 信子 (いより のぶこ)
ノートルダム・ド・ヴィ

復活の信仰

九^{のり}里 彰

現代は、自然科学技術の進歩により、快適な生活が皆に保障されている。多くの人が、「この世が最高、死んだら終わり」と考えているのではないだろうか。とはいえ、愛別離苦の現実は、今も昔も変わることはない。親しい人との別れ、特に肉親との別れは、身を切られるような悲しみ苦しみを人々にもたらす。

イエスの時代でも同じであった。ラザロ危篤の報を受けても、イエスは動かず、亡くなって四日後、ようやくベタニアへおもむく。迎えに出たマルタはイエスに文句を言う。「主よ、もしここにいてくださいましたら、私の兄弟は死ななかつたでしょうに」。イエスが彼女に、「あなたの兄弟は復活する」と言うと、「そんなことは知っています」と言わんばかりに、「終わりの日の復活の時に復活することは存じております」と答える。「もう死んでしまったのですから、気休めを言わないでください。終わりの日の復活のことなど触れないでください」というところだろうか。女性を怒らすと怖い。

だがこの後、驚くべき言葉がイエスの口から洩れる。

「私は復活であり、命である。私を信じる者は、死んでも生きる。生きていて私を信じる者はだれも、決して死ぬことはない」。

人間であれば、皆、必ず死ぬ。永遠に生きることはない。それゆえ、だれが自分は「復活であり、命である」と言えるであろうか。また「私を信じる者は、死んでも生きる」とは、イエスを信じる者は生物としては死んでも、復活し、永遠の命を生きるということであろう。「生きていて私を信じる者はだれも、決して死ぬことはない」も同様に、生物としての命を失わないということではなく、復活の命を生きるということであろう。

いずれにせよ、「このことを信じるか」と問われたマルタは、「はい、主よ」と答える。現代の私たちも問われている。「このことを信じるか」と。

十字架の聖ヨハネのこぼれ話（184）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

初級教本と棒と学校

アビラのアハテス地区の子どもたち間でも小柄な十字架のヨハネの姿は、貴重です。彼は小さな子供たちに読み書きや祈りや要理を教えていました。

でも今回のこぼれ話は、そこでのことではなく、バエサの聖バジリオ修道院でのことです。そこで彼は神学院の学長でした。修練者の一人は、聖パウロのヨハネと呼ばれていました。彼はカステヤール出身で、ホアン・ロドリゲスとフランシスカ・デ・トレスの息子でした。サラマンカ大学で学び、法律に精通していました。霊的書物に飽きてきたので、修練長のところへ行き、あることを調べるために教会法の専門書を願いました。修練長は学長に相談しました。十字架のヨハネはこう答えました。

—「初級教本を持ってくるように」。

「初級教本」、すなわち「そこには abc の文字が書かれており、それを通して子供たちは読むことを習い」、またキリスト者の祈りも載っていました。ヨハネは教本を指さしながら、こう言いました。

—彼にこの本と（地図などを指す）棒を与え、私が他のことを命じるまで、毎日、他のことをせずに、主の祈りの章を読ませなさい。

この修練者はそれに従い、長い間、床に跪き、「子供のようには手に初級教本と棒を持って、子供の頃、急いで読み飛ばしていたところを、ゆっくりと読み、調べ、黙想しました」。

治療の効果は抜群でした。これを物語ったアロンソ神父は、その「教育的・霊的」措置の結果を評価するかのよう、次のように述べています。「多くの日々、そのように学んだことは、無駄になりませんでした。神は彼の高慢を打ち砕き、ご自分の優しさをとても深く伝えたので、彼をまったく別人のようにはしてしまいました」。

彼を学校に送るだけでなく、「修練期の大半、台所に送り、さまざまな修行をさせました」。年月を経てカスティリアの管区長となった聖パウロのヨハネ自身が、これらのエピソードを、感謝と喜びの内に物語っています。

(P. 九里)

年間 第31主日 (A)

(マラキ 1:14b-2:2b、8-10、—テサロニケ 2:7b-9、13
マタイ 23:1-12)

マタイ 23 章 1-12 節では、イエスは、律法学者たちとファリサイ派の人々の権威を認めていながらも、彼らが口で命令したり立派なことを口で言うだけで彼ら自身は律法を守っていないことを咎めています。

この福音箇所が、今、教会で読まれているということは何のためでしょうか？律法学者やファリサイ派とされている、キリストを十字架につけたユダヤ人を責めるためでしょうか？キリストを信じている自分たちキリスト者は正しい者で、ユダヤ人、ひいてはユダヤ教は律法主義、形式主義だとして彼らに対する霊的優越感を植え付けるためでしょうか？実に、カトリック、プロテスタント含む教会の歴史の中では、このような箇所が、教会の公の解釈でないにしても、反ユダヤ思想と結びつき、ユダヤ人に対する長い迫害となりました。憎しみ、そして憎しみから生じる人間的怒りは神の愛、福音に反するものです。

この福音箇所は、キリスト教会内で読まれ、キリスト教会に向けられた警告であり、キリスト信者一人一人に向けられた警告であり、そして最も切実に自分のこととして受け止めなければならないのは、司祭、修道者です。キリストを信じているといいながら硬直した律法主義に陥り、痛快し、神に立ち返りたい、赦されたいと望んでいる方に対してその道を塞いでいる司祭、修道者をはじめとする信者一人一人に対して言われていることです。さらには、権威の座にいる者、司祭、また修道会の管区長、院長、また、養成の家では養成担当者が、口で命令するだけで自分では指一本動かそうとしない、あるいは、他者に対する監視の目は人一倍厳しいが、自分にはその目は向いていないため、自分はルールを守ってしっかり福音を生きていると勘違いしている人、そのような方々に対しての言葉です。

今日の箇所の後、マタイ 23 章 13 節から 36 節ではそのような方々に対して福音は何と言っているのでしょうか。新共同訳では、「律法学者たちとファリサイ派の人々、あなたたち偽善者は不幸だ」という言葉が繰り返されます。ここでの「不幸だ」は、ギリシャ語原文では「ウーアイ」という言葉で、「ウェッ」（悲嘆、悲痛を表す）をいう意味の感嘆詞です。

私たちはまず、自分自身の内にある律法学者やファリサイ派的な傾向を認めるべきです。自分は関係ないと思っている方こそ、おそらくまさに「ウーアイ」と呼ばれることでしょう。

今日の福音をしっかりと見つめた先に、キリストは私たちに、「あなたがたのうちでいちばん偉い人は、仕える者になりなさい。だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる」(23:11-12) という言葉が響いてきます。私たちが真に神の愛を知り、へりくだるようになるのは、自身の罪をしっかりと見つめた後です。マラキの預言は言います。

「祭司たちよ、今あなたたちにこの命令が下される。もし、あなたたちがこれを聞かず、心に留めず、わたしの名に栄光を帰さないなら、と万軍の主は言われる。わたしはあなたたちに呪いを送り、祝福を呪いに変える。いや既に呪いに変えてしまった。これを心に留める者があなたたちの間に一人もいなかったからだ。見よ、わたしはあなたたちの子孫を脅かし／あなたたちの顔に汚物を浴びせる。それは祭りの犠牲の捨てられたものだ。あなたたちは、その上に投げ捨てられる。そのとき、あなたたちは知るようになる。」

(マラキ 2:1-4)

(P. 志村)

年間 第32主日 (A)

(マタイ25 : 1 - 13)

今日の福音は、主の到来を待っていつも準備している必要があると強調しています。パレスチナの結婚の習慣に基づく短い譬え話を読みます、これは私たちに常に主の到来を準備しているように教えています。

この賢いおとめと愚かなおとめの譬え話は、今日の私たちのものとは異なる文化的背景に基づき語られています。結婚式の日、花婿とその友人たちは花嫁をその家族から連れ去りに行きます。式は夜中におこなわれましたから、花婿たちは花嫁の場所に、ときには日没後に着くように出発したものでした。彼らが到着するとすぐに、花嫁の付き添いのおとめたちがパーティー会場の花嫁の家族のところへ花婿を連れていき参加させます。彼らは夜間の旅のために灯をつけたランプを選び、行列し、愛の歌を歌いました。譬え話では、花婿は遅れて夜中に到着しました。ランプを準備していた賢いおとめたちは花婿といっしょに結婚式に入り、愚かなおとめたちはランプの油がきれたので探しに行き、結婚式に入れませんでした。

この譬え話は、復活した主はすぐに戻ってくると思っていた初代のキリスト者への警告として語られています。福音は、主の到来は思っていたより遅いかもしれない、だから、長く待つために十分な油を準備して待つようにと教えているのです。この譬え話を霊的な目で読むならば、花婿はキリストで、花嫁は教会です。10人の付き添いのおとめは教会のメンバーたちです。ランプは、キリスト者が持っている信仰を表します。油は、慈善のよい働きを示します。油の切れたランプはよい働きのない信仰のようなものです。

福音のメッセージは、全ての時代のキリスト者に関係があります。典礼年の終わりになると、教会は福音によって私たちに命の終わりについて考えるように招きます。終わりの時を準備する最善の方法は、賢いおとめのお手本に従うことです。主が来られるときにはいつでもお会いできるように、ランプを燃え続けさせ、信仰を生き生きとし続けるために、寛大な奉仕と慈善のよい働きをすることです。

(*Sr. Paulina*)

年間 第33主日

(マタイ25 : 14-30)

教会の一年の暦も年の瀬を迎え、残すところあとわずかとなって参りました。今日は年間第33主日で、来週の王たるキリストの祭日、そしてその週で1年が終わります。一年の終わりの時が近づき、聖書のみことばも終わりの時について語られてゆきます。

今日の神のみことばは、天の国についてのたとえ話です。僕たちの力に応じ、主人は自分の財産を預けて旅にでました。そして旅から帰ってきた主人の前で、預かっていた財産の報告をすることになるわけですが、五タラントン預かった僕は、商売を行って、預かってお金のほかに五タラントンを儲けて、主人からお褒めの言葉をいただきました。

次に二タラントン預かった僕は、預かったお金のほか二タラントンを儲け、主人から同様にお褒めの言葉をいただくことになりました。最後に一タラントン預かった者は、これまでの僕、預かった財産以外に儲けた僕たちとは異なり、主人の恐ろしさを心配し、お金を地中に隠しておき、それをそのまま主人に戻しました。主人から役に立たないと言われて、外の暗闇に追い出されて、泣きわめいて歯ぎしりすることになる、すなわち天の国には入れないことになるわけです。

どうしてこの様な違いが出たのでしょうか。最初の僕、五タラントンを預かった僕、そして二タラントンを預かった僕は、お金を自分の裁量に任せた主人の信頼の大きさを理解して、儲けることができました。主人の反応を見ていると、五タラントン儲けた僕、二タラントン儲けた僕ともに、忠実な良い僕として捉え、儲けた額のゆえにではなく、その行い、その心を評価されることになりました。

ところが一タラントン預かった僕は、先の僕たちと異なり、主人の信頼を理解できず、主人を恐れるだけでなく、主人から預かったお金を地に隠すという行動に出たわけです。そしてその行動、その心を咎められ、怠け者の悪い僕と言われてしまいました。

私たちは神の私たちへの、私への信頼を受け止め、生きるように誘われているのではないのでしょうか。神への信頼のうちに誠実に生きるならば、いつか私たちが亡くなって神のみ前に出るときに恐れることはないでしょう。神からいただいた恵みに感謝して、今日も神とともに歩んでゆくことができますように。

(Fr. 古川利雅)

王であるキリスト (A)

(マタイ 25 : 31 - 46)

「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」

王であるキリストの祭日は年間第34主日にあたり、典礼暦年の最後の日です。マタイによる福音は、最後の審判の様子を描いている唯一の福音書です。審判の基準は、社会の「最も小さい者」に対するあわれみの奉仕の有無です。

私たちは必ずいつの日か、真の審判者であるイエスのみ前に立って自分の生涯について申し開きをしなければなりません。マタイ 25 章 40 節の「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」のうち、「最も小さい者」というのが最も重要な点です。自分たちと仲の良い人への愛の深さではなく、愛するのが難しい最も小さい兄弟姉妹への愛の深さに基づいて審判が行われます。キリスト者としての生き方と他者への奉仕の度合いに応じて天の国で大きな喜びを刈り取るのです。

イエスのご自分の生涯を通して「仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人々の身代金として自分の命を献げるために来た」(マルコ 10 : 45) ことを示されました。つまりすべての人にいのちを与えるためにイエスはこの世に来られたのです。そして福音には、飢えている人、のどが渇いている人、旅人、裸の人、病気の人、牢屋にいる人などあらゆる人の中に現存するイエスのところを見出すと、分け隔てなく他者に奉仕できるようになるというメッセージが込められています。もし私たちの敵の中にもキリストがおられると信じるならば敵をも許せるようになるでしょう。

私たちの主であり王であるイエス・キリストは、失われた者を探し、迷った者を連れ戻し、けが人を手当てし、病人を癒すために来られました。私たちも最も小さい者や最も助けを必要とする者を探しに出かけて彼らに仕えなければなりません。彼らに仕えることは神に仕えることであり、永遠のいのちと幸せにあずかることだとところに留めておきましょう。

(Sr. Paulina)

いのちの言葉 11月

あなたがたはすべて光の子、昼の子だからです。
わたしたちは、夜にも暗闇にも属していません。¹
(1 テサロニケの信徒への手紙 5・5)

「光」は常に「いのち」を象徴してきました。毎日私たちが、夜明けを待ちのぞむのも新たな一日の始まりだからです。

光は、さまざまな民族の歴史、そして古代宗教のなかでよく取りあげられてきたテーマです。例えばユダヤ教では、エルサレム神殿の再奉獻と異教徒からの解放を記念して「ハヌカ Hanukkah」と呼ばれる伝統的な光の祭典がとり行われ、イスラム教ではアラビア語で「マウリッド Mawlid」、トルコ語で「メヴリッド・カンディリ Mevlid Kandili」として知られる預言者マホメットの誕生日のお祝いにはローソクに火が灯されます。また、もとはヒンズー教の祝いであった「ディワリ Diwali」は、悪に対する善の勝利を象徴する光の祭典として、インドの他の宗教の間でも祝われます。そして私たちキリスト者にとって世の暗闇を照らす光、それはイエス・キリストです。

このように、光は、ひとつの非常に強い現実を象徴するものであり又、神聖なもの神の存在をも表すものです。光は、全人類への、そして、この地球への贈り物なのです。

**あなたがたはすべて光の子、昼の子だからです。
わたしたちは、夜にも暗闇にも属していません。**

では、ここで言う「昼の子」の特徴とは何でしょうか？ そのひとつは、「夜にも暗闇にも属していない」ことです。従って眠っていたり、無関心であったりせずずっと目を覚ましているという決断にあります。人生のあらゆる瞬間、しっかり地に足をつけて、精一杯、愛に生きるという選択です。

使徒パウロは、怠惰な生き方や無関心ではなく、みんなで共に目覚めて生きよう、とテサロニケの共同体に強く勧めています。パウロが言うように(1 テサ 5: 8 参照)、全人類がとりわけ光を必要としている今この時、「暗闇に属していない」人たちは、信仰と愛と希望をもって、「復活された方の存在」を目に見えるものとするために、自らを捧げながら、人と人との関係に光をもたらす使命を担っているのです。

さらに、私たちは自分の心の奥深くに入り、祈りを通して神と対話し、また神のみ言葉を生きてこの光を輝かせることで、神といっそう親しい真の関係を培っていく必要があるのです。

**あなたがたはすべて光の子、昼の子だからです。
わたしたちは、夜にも暗闇にも属していません。**

とは言え時々私たちは、心の闇の中で生きることにも慣れてしまっていたり、

多くの見せかけに過ぎない光や、この世が提供するさまざまな幸福に甘んじてしまったりすることもあります。しかしながら神は、ご自身の光を常に私たちの内に輝かせようとされます。それで人々のことや様々な出来事を見る目を私たちに与え、それらを通して織りなされる光の模様を見せてくださいます。

暗闇から光へと移ることで、私たちは新たに生き返ります。そのために必要なのは、暗闇から光へと向かう絶えまない努力と選択です。キアラ・ルービックも記しています。「キリスト者は世から逃避することも、あるいは、身を隠したり、信仰はあくまでも私のプライベートなことだと考えたりすることも出来ません。キリスト者には、この世を照らす光となる責任と使命があるからです。あなたにもこの使命があります。ですからこの使命を果たすならあなたは無益な存在にはならないでしょう。そうでなければ塩気を失くした『塩』、光の失せた『影』のようになってしまいます。2」… すべてのキリスト者には、この光を自分の内に輝かせながら、人々の間で神の現存の『しるし』となる役割があるのです」3と。」

**あなたがたはすべて光の子、昼の子だからです。
わたしたちは、夜にも暗闇にも属していません。**

神は光ですから、真摯な心で神を探し求める人は神を見出すことができるでしょう。そして神の子である私たちは、たとえ何が起ころうとも神の愛から決して引き離されることはありません。この確信をもっているなら、私たちはどんな予想外の出来事にも驚愕したり、押しつぶされたりすることはないでしょう。

今年2月に起きたトルコとシリアの大地震は5万人以上の犠牲者を出し、何百万人もの人々の生活を一変させました。この大惨事を免れて生き延びた人々、さらに現地の共同体や他国の共同体は、愛する家族や家屋、その他すべてのものを失った人々のために働き、救援活動及び物資を配布する「光の拠点」となりました。

光の中で生きようとし光を生み出す道を選びとる人々は、闇によって打ち負かされることはありません。キリスト者にとってこの生き方は、私たちの間におられるイエスとの生活だからです。イエスの存在は、私たちにいのちを垣間見させ、希望を与え、私たちがいつも神の愛のうちに留まれるようにして下さるのです。

**あなたがたはすべて光の子、昼の子だからです。
わたしたちは、夜にも暗闇にも属していません。**

パトリツィア・マッツォーラと「いのちの言葉」編纂チーム

*いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

1. 日本聖書協会『聖書 新共同訳』
2. マタイ福音書5・13-16 参照
3. キアラ・ルービック、いのちの言葉 1979年8月より

連絡先: フォコラーレ 東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812
E-mail: tokyofocfem@gmail.com ホームページ: <https://www.focolare.org/japan/>

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com>
の記事を紹介します。

◀ Communications (時事通信) ▶

2023年9月16日

跣足カルメル修道会の青年たちが、ファチマから ワールドユースデーに参加開始





ポルトガルのリスボンで教皇フランシスコを迎えて行われる公式のワールドユースデー開会祝賀式に先立ち、私たち跣足カルメル修道会の青年たちは7月31日にファティマで聖母マリアのマントの御保護のもとに集まりました。約200名の私たちは三大大陸の異なった国々から参加しました。

その日の朝、青年たちは教皇聖パウロ6世センターでミゲル マリア マルケスOCD総長と活気に溢れた対話集会を持ちました。マルケス総長は青年たちに、イエスの聖テレジアや十字架の聖ヨハネのように教会に奉仕して、本質的なことであるイエスとの友情に自分たちの人生の焦点を据え、私たちが人生で出会う小さな出来事にも注意を払うよう勇気づけられました。

午後は、ファチマの大聖堂の周辺を訪れ、二つのワークショップに参加し、その後ザリオ聖堂でその日の終わりのミサにあずかりました。あるカップルは跣足カルメル修道会の歴史とカリスマについての考察プログラムを行い、その後シスターアンジェラ コエーリョは、ファチマの聖母ご出現に遭遇した人の一人である尊者シスター ルシアについて発表をされました。その日の締めくくりのミサで、マルケスOCD総長は、最も小さなものが教会と社会のために行うすべての善について神に感謝を捧げられました。

総長は、ウクライナの一部を破壊した爆弾の破片を持ってきて尊者ルシアの墓に置きました。この破片は、ウクライナのある母親から、マルケスOCD総長にファチマへその破片をもって行って、皆が全員で平和を祈れるよう託されたものです。

(訳・注:小宮山延子)

糸巻き棒からペンへ(91)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス OGD

あなたが、神とともに、また私たちの栄えあるおとめマリアとともにとどまりますように。聖母は、そのご生涯の一瞬たりとも、ご自分の息子である神の御子と、愛をもって交わることなく過ごされることはありませんでした。こうしてこの地上で主ともとても親密に交わわれた、私の父であり主である聖ヨゼフとともに、私たちの祈りの教師でもあられるのです。ですから主をお見捨てになさることなく、この道にとどまりなさい。主ご自身が、始める者は多いが、堅忍する者は少ないとおっしゃっています。この厳しい時代では、神のしっかりした友でなければならぬのです。

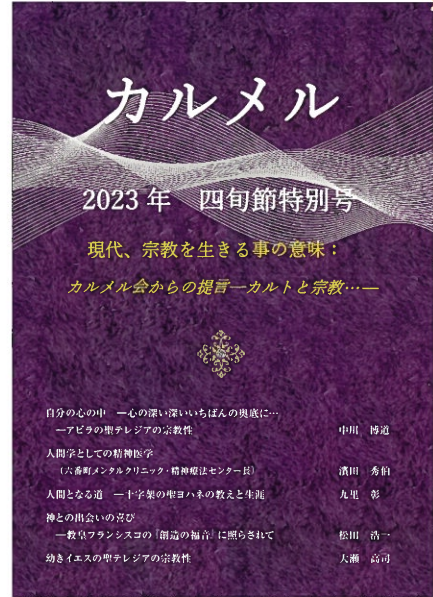
あなたの僕
イエスのテレジア

7. 結論

イエスのテレジアは、きわめて観想的な女性であるとともに、有能な活動家でもありました。初めに申し上げた通り、この書では、女性であり、著述家であり、創立者であり、祈りの師であるという、彼女のとても豊かな人間性に読者を近づかせようと試みしました。彼女の提案の独自性をより深く理解するために、当時の時代状況の中で、その中からいくつかの要素を取り出したり、他の諸要素と照らし合わせたりしながら、彼女を紹介しました。

私は、彼女の教えの現代性を深く確信しています。それは、今日の信者が、現代の社会や教会において、福音の永遠の新しさを体現する道を見出す助けとなってくれることでしょう。この書によって、聖女のメッセージを理解する何らかの鍵を提供できたと思っています。またこれを読むことによって、多くの人がこの偉大な女性の著作に近づくよう促されたと信じます。そこで、「神の偉大さには限りがありませんし、そのみわざも同じです」(『靈魂の城』7,1,1)ということを見出すことでしょう。テレジアに友として伴侶として自らを示された神は、私たちとも交わりたいと願い続けておられます。神に心の扉を開きましょう。(完)

(P. 九里訳)



2023年 秋号 No.390

《ともに歩む—パンデミックの世界の中で》
神の善意に参加する、「シノダル」キリスト者
ポーリン・フェルナンデス

カルメルの外のカルメル
—教会の外から見られたアビラの聖テレジアと
十字架の聖ヨハネ(3) 鶴岡賀雄

エディット・シュタインの青春
—ブレスラウでの学生時代 釘宮明美

奉獻生活における心理学的知性と禁欲の霊性(3)
ウイリー・ソバ

日々の出来事の中で 神の霊は導く(7)
—テレーズ生誕(1873~1897)—五〇周年を迎えて
伊従信子

風に吹かれて再び(5)—締め切り日 原 造

平和への道(3) 九里 彰

霊的研究会講義録(21)—聖書・祈り・愛について
奥村一郎

2023年 特集号

現代、宗教を生きる事の意味:
カルメル会からの提言—カルトと宗教—

自分の心の中—心の深い深いいちぼんの奥底に…
—アビラの聖テレジアの宗教性 中川博道

人間学としての精神医学 濱田秀伯

人間となる道—十字架の聖ヨハネの教えと生涯 九里 彰

神との出会いの喜び
—教皇フランシスコの『創造の福音』に照らされて
松田浩一

幼きイエスの聖テレジアの宗教性 大瀬高司

ご案内 1冊 580円 A5サイズ 50~70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・
各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、760円【580円(+送料180円)】程度の献金を下記へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費(年5冊:春夏秋冬+特集号 計 3,600円)を
下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会

●お問い合わせは、事務担当:内田幸子宛に上野毛修道院へ手紙かファックス、又は e-mail で。

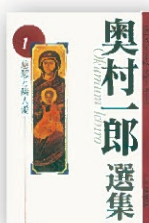
〒159-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 Fax: 03-3704-1764

E-mail: carmelshi.iimu@gmail.com

奥村一郎選集



カトリック教会は、第二バチカン公会議において、世界の諸宗教・諸文化にも開かれた福音の現代的意義を世界に宣揚した。その精神を深く一身に体現した靈性指導者、それが奥村一郎師である。幼子のような無と赤裸の心で神を求めるカルメル会靈性を深めつつ、禪仏教をはじめとする東洋的靈性との対話に生涯を懸け、日本人の心の琴線にふれるキリスト教を語った。分かつたことのない心で、「すべて」である神へ。



第1巻

慈悲と隣人愛

解説：西村恵信

日本文化に影響を与える仏教の光を当てつつ聖書を読む

み、キリスト教の本質理解に近づく。



第2巻

多文化に生きる宗教

解説：橋本裕明

宗教対話と靈性交流から得られた柔軟な視点から、日本での

新たな宣教の可能性を示す。



第3巻

日本の神学を求めて

解説：小野寺 功

日本の地に根ざす神学、その開花の可能性を福音の視点

点である相互愛から問いかける。



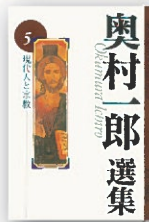
第4巻

日本語とキリスト教

解説：阿部仲麻呂

関係を重視する表現が中心となる日本語を手がかりに、こ

とばと信仰の関係を再考する。



第5巻

現代人と宗教

解説：鶴岡賀雄

宗教不在とされる現代、人々が直面する課題にキリスト教は

どう向き合っていけるのか。



第6巻

永遠のいのち

解説：八木誠一

生と死、罪と恵み、正義と愛——人間の栄光と悲慘を見極

め、永遠のいのちへの道を探る。



第7巻 品切れ

カルメルの靈性

解説：高園泰子

カルメルの代表的な聖人、テレジア、ヨハネ、テレーズを通

して、その靈性の根源に迫る。



第8巻

神に向かう〈祈り〉

解説：高橋重幸

東西における祈りの方法論を丹念にたどりつつ、キリスト教

の祈りの本質を明らかにする。



第9巻

奉獻の道

解説：宮本久雄

すべての人にみずからを与えつづす奉獻生活を通して、

人間そのものの神秘を見つめる。

全9巻（第7巻のみ品切れ） 四六判・上製／平均240頁 定価各2,200円（税込）

8冊以上で送料サービスとなります。

オリエンズ宗教研究所 TEL: 03-3322-7601 FAX: 03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンズHP、FAX、ネット書店などへ

新刊紹介

聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた ニコラオ・プレシエル神父の講話 II ロザリオの祈り



Chrysostomus
小野崎良子 編

ロザリオの祈り

聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた
ニコラオ・プレシエル神父の講話 II

【出版社】 教友社

【著 者】 小野崎良子：編

価格 1,650 円（税込）

品番/ISBN: 9784907991807

発売/発行年月: 2022 年 3 月

判型: A5

ページ数: 184

中川博道師
(カルメル会)
《推薦》

聖母マリアは、「イエスを愛し、信じて生きるキリスト者の典型・模範」です（教会憲章 53 番）。ニコラオ師はロザリオを通して、日々私たちが、イエスの神秘をマリアとともに生きる道をわかりやすく説明してくださいました。

教友社定価 (1,500 円＋税)

「ニコラオ神父様が、ロザリオの祈りを捧げながら歩いているときに、突然十五の玄義の流れが鮮明に示され、ご自分の中でまとまったその内容をわたしたちに語られました」（「はじめに」より）。ニコラオ師亡き後、師の薫陶を受けた信徒たちによって記録された講話が 1 冊の本に。中川博道師（カルメル会）推薦。

小野崎 良子(おのぎき・りょうこ)

1950 年夕張市大夕張の炭鉱の町に生まれる。小学 4 年生の時、「クリスマスにはプレゼントがもらえる」という級友の誘いに乗り、高校卒業まで熱心にカトリック教会に通う。その後地元を離れ旭川の学校に進学。青春を謳歌する日々の中、ふと感じた「空虚さ」を確かめるために再度教会(大町教会)を訪ねる。そこでニコラオ神父様に出会い受洗にいたる。

39 年間の教職生活を終えた後、ラジオで流れたキャロル・サック 宣教師の歌とハーブに触発され、日本福音ルーテル社団主催「リラ・プレカリア(祈りのたて琴)研修講座」にて 2 年間の養成を受ける。現在は求めに応じて、病床にある方、高齢者などを訪問し歌とハーブによる祈りをお届けしている。

ニコラオ・プレシエル神父

1921 年、(旧)チェコスロバキアに生まれる。1940 年、ドイツ軍無線通信兵として従軍。

1946 年、フランシスコ会に入会(ドイツ・フルダ管区)し、1952 年、司祭に叙階される。

1953 年、来日。1956 年、カトリック名寄教会着任。以後、美唄教会、大町(旭川)教会、枝幸教会、稚内・枝幸教会、富良野教会にて司牧。

2001 年以後、フランシスコ会札幌修道院、月形町藤の園にて療養する。

2007 年 1 月 6 日、月形町藤の園にて帰天(85 歳)。

書籍紹介

十字架の聖ヨハネ理解のための

待望の書 翻訳刊行



『十字架の聖ヨハネの霊性』

フェデリコ・ルイス師の講話
〈十字架の聖ヨハネ・霊性神学研究の第一人者〉

著者：フェデリコ・ルイス

訳者：九里 彰

判型：B6 判並製

ページ数：184 ページ

価格：本体 1,600 円+税

ISBN：978-4-8056-3918-4 C0016

発行：サンパウロ

スペインで「詩人の守護聖人」と称される十字架の聖ヨハネは、日常生活の中で神との親密な関係を生き、キリストと、隣人との愛の交わりを生きた聖人でした。自身の神体験を詩で表し、自らそれを解説し、著作として残しています。彼は決して近寄り難い人物だったわけではなく、バランスの取れた温厚な人でした。

インターネットや AI が発達する、「霊性の時代」といわれる現代において、神との出会いを生きる真の意味を、十字架の聖ヨハネの思想、生涯の中に探ることができます。

十字架聖ヨハネを正しく理解することは、霊性を正しく理解することの基礎となっていきます。

フェデリコ・ルイス・サルバドル

1933 年スペイン、バレンシア生まれ。1950 年跣足カルメル修道会入会。

1957 年司祭叙階。ローマ・カルメル会国際神学大学テレジアヌム教授。

2018 年 10 月 27 日マドリードにて帰天。享年 85 歳

九里 彰

カイルメル修道会司祭。1981 年上智大学大学院哲学専攻、博士後期課程修了。1990 年カルメル会入会。1997 年司祭叙階。1999~2002 年スペイン留学。カルメル修道会 元日本地区総長代理。現在、金沢広坂修道院院長

愛と英知の道

—すべての人のための霊性神学—

ウィリアム・ジョンストン 著

監訳 九里 彰
 岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳



西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生活の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにし

第一部 キリスト教の伝統

- 第1章 皆 畏（1）
- 第2章 皆 畏（2）
- 第3章 理性対神秘主義
- 第4章 神秘主義と愛
- 第5章 東方のキリスト教
- 第6章 愛を通して生まれる英知

第二部 対話

- 第7章 科学と神秘神学
- 第8章 修徳主義とアジア
- 第9章 神秘主義と根源的なエネルギー
- 第10章 英知と〈空〉

第三部 現代の神秘的な旅

- 第11章 信仰の旅
- 第12章 浄化の道
- 第13章 暗夜
- 第14章 〈愛のうちにある〉
- 第15章 花嫁と花婿
- 第16章 一 致
- 第17章 英知
- 第18章 活動
- 第19章 社会活動の神秘主義



ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)

北アイルランドのベルファストに生まれる。

イエズス会に入会し、26歳で来日。

32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学を習得し、神学博士の学位を得る。その後、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。パドロー・アルベ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、速藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。



書籍案内

生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

———目次———

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
- 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
- 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
- 4 脱原発の倫理／久保文彦
- 5 何のために働くのか／神谷秀樹
- 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
- 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
- 8 関係の倫理学／清水正之
- 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
- 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
- 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
- 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
- 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ



**第2版
好評発売中!**

福者マリー=ユジェーヌ神父に導かれて
十字架の聖ヨハネの
ひかりの道をゆく

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195

定価**540**円(税込)

【聖母文庫】 **287**



マリー = ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネ
を生き、体験し、確認した教えなのです。
ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの
教えは現代の人々にも十分適応されます。
また、神の命を伝え、実践的手段を示して
聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の
配慮が伝わってきます。(「はじめに」より)

神と親しく生きる
いのりの道

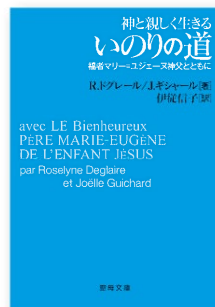
福者マリー=ユジェーヌ神父とともに

R. ドグレール / J. ギシャル 著

伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】 **246**

定価**540**円(税込) 209頁



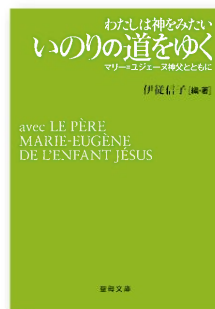
わたしは神をみたい
いのりの道をゆく

マリー=ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

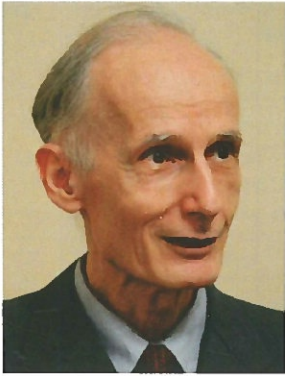
ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】 **268**

定価**648**円(税込) 281頁



ご注文・お問い合わせ先

聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN
第1巻	I 超越体験 一宗教論 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	定価(本体+税) 9784862852151 3,800 円+税
第2巻	II 真理と神秘 一聖書の黙想 日常生活を貫いて人間とかかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	III 信仰と幸い 一キリスト教の本質 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」とおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに広げて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践 信仰との関わり合いの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

●リーゼンフーバー、クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(～2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知 泉 書 館 〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.chisen.co.jp>

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）



東京 上野毛 霊性センター

黙想企画 **上野毛 聖テレジア修道院 (黙想) **
(2023年11月~)

- ・祭日のミサに参加するために

チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

【クリスマス】

2023年12月24日(日)~25日(月) 朝食 《講話なし、夕食なし》

- ・聖書深読黙想会(土曜日17時~日曜日16時) カルメル会士

2023年

2024年

11月18日~19日

2月24日~25日

- ・奉獻生活者のための黙想会 (初日17時~最終日朝食) カルメル会士

2023年12月27日(水)~1月5日(金)

- ・青年黙想会(男女) 35歳まで(初日16時~最終日16時) カルメル会士

2024年 3月23日(土)~24日(日)

- ・特別黙想会(初日20時夕食なし~最終16時) Sr. 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)

2023年 11月3日(金)~5日(日)

- * 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- * こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です(グループ、個人いずれも)。お気軽にお問い合わせください。
- * 間違いを避けるため、お問い合わせは FAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂けますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール: mokusou@carmel-monastery.jp

ホームページ: <http://www.carmel-monastery.jp>

旧約聖書から学ぶキリスト教霊性 —キリストの十字架の恵みをより味わうために—

2023年11月18日

アブラハムの霊性、イサクの霊性、ヤコブの霊性とわたしたち

2023年12月16日

出1, 2章、10の災いとファラオのかたくなさ、シナイ契約と神の慈愛
(ヘセド)

2024年1月20日

ルツ記 人による慈愛(ヘセド)と神の慈愛(ヘセド)

2024年2月17日

民数記の全体構造とメッセージ① 旧世代

2024年3月16日

民数記の全体構造とメッセージ② 新世代

その後のテーマ：ヨシュア記の全体構造とメッセージ、士師記の全体構造とメッセージ、サムエル記の全体構造とメッセージ①、②、列王記の全体構造とメッセージ、エズラ・ネヘミヤ記の全体構造とメッセージ、など

持ち物：必ず聖書(旧約+新約)をご持参ください。

場所：跣足カルメル修道会日比野修道院(カトリック日比野教会)

参加費無料。

担当：志村武神父(跣足カルメル修道会)

問合せ：日比野修道院(052-671-1003)

静修の集い(名古屋日比野修道院)

2023年12月2日(土) 10:00~15:00

テーマ：十字架の聖ヨハネにおける自由と解放

講話担当司祭：九里彰神父

【スケジュール】

10:00~11:30 講話①

11:30~12:00 ご聖体顕示、念祷

12:00~13:00 昼食(各自持参)

13:00~14:00 講話②、 14:10~ミサ、その後茶話会、解散(15:00頃)

持ち物：聖書、昼食(各自)、お持ちの方は『カルメル山登攀』

参加費：無料(自由献金をお願いいたします)

以降の日程：2024年3月9日



宇治カルメル会 黙想会案内

(2023年11月～2024年3月)

【一般のための黙想】 中川博道神父

1泊2日 (土曜 午後5時～日曜午後4時)
5:30 サルヴェ・レジーナ (修道院) から開始
11月25日～26日
2024年
1月20日～21日

【聖書深読】 (土曜午前10時～午後4時) 中川博道神父

変更 12月16日→11月11日
2024年
変更 2月3日→2月10日

【水曜黙想会】 (午前10時～午後4時) 中川博道神父

11月8日 12月13日
2024年
1月17日 2月14日 3月20日

【カルメルの霊性】 (金曜午後5時～土曜午後4時) 松田浩一神父

十字架の聖ヨハネ 12月8日～9日

【祈りの学校】 (木曜 午前10時～午後4時) 松田浩一神父

11月2日 12月7日

【祈りの学校 入門編】 (火曜 午前10時～午後4時) 松田浩一神父

11月28日

【奉献生活者の黙想】 (午後5時～午前9時) 一般可

11/12 (日) ～21 (火) 中川博道神父
12/27 (水) ～1/5 (金) 中川博道神父
2024年
3/4 (月) ～13 (水) 中川博道神父

新企画

【男性のための黙想会】 中川博道神父

11月22日 (水) ～23日 (木) …22日は夕食を済ませ21時までに
おいでください。

新企画

【青年男女のための黙想会】(35歳以下) 松田浩一神父

1泊2日(土曜 午後5時～日曜午後4時 日曜のみ参加可)

11月4日(土)～5日(日)

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします—

☆お申し込みは電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話はなるべく午前9時～午後5時の間にお願い致します。受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願い致します。

聖書は各部屋に備えております。またタオル類も準備してありますが、コロナ感染症対策のため各自専用分を持参してもかまいません。

現在は感染防止策のため人数制限をしておりますので黙想参加希望の方は早めのお申し込みをお勧めします。

また参加の際には三密回避などを心がける様ご協力お願い申し上げます。



〒611-0002 京都府宇治市木幡御歳山 39-12
宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)
Tel 0774-32-7016 Fax 0774-66-1191
E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp
<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

教皇フランシスコの著作を学びましょう

日時：① ~~2023年10月7日(土) PM5時～10月8日(日) PM5時~~
~~(尚、日曜日4時から女子カルメル会でミサの予定)~~



著作：~~使徒的勧告『キリストは生きている』 終了~~

② 2023年11月4日(土) PM5時～11月5日(日) PM4時

著作：回勅『兄弟の皆さん』



イエスのテレサ



リジューのテレーズ



十字架のヨハネ

教皇フランシスコは、現在起きている各地の戦争を憂慮しています。日本も国際社会の一員として他人ごとではありません。私たちの思いを凌駕する神の思いとは何でしょう。人間の正義を凌駕する神の義は「いつくしみ」とテレーズは言います。教皇の著作からこのことを学ぶことに致しましょう。

場所：宇治聖テレジア修道院（黙想）

対象：35歳までの青年男女

参加費用：下記のEメールか、FAXでご確認ください。

講話と同伴：松田浩一神父

申込み：〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

FAX：0774-32-7457

Email：teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

松田浩一神父（カルメル会）による黙想会

「祈りの学校」

キリスト教の祈りを学び、実践する企画です。イエス様から教会へ伝承された「祈り」に基づいて、そして教会の中で培われた「祈り」について学んでいきます。



すべて木曜日 10:00～16:00

~~4月13日~~ ~~6月1日~~ ~~7月6日~~ ~~9月14日~~

~~10月5日~~ **終了** 11月2日 12月7日

「祈りの学校 入門編」

すべて火曜日 10:00～16:00

~~5月23日~~ ~~6月27日~~ ~~9月12日~~

~~10月10日~~ **終了** 11月28日

持参するもの・・・筆記用具・ロザリオ

お問合せ・お申込みは、FAX、ハガキ、E-mailにてお願いします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

カルメル会宇治聖テレジア修道院（黙想）

Fax 0774-66-1191（聖テレジア修道院（黙想）専用）

E-mail : teresiauji@mountain.ocn.ne.jp



番組案内

www.febcjp.com 〈毎日更新〉



<p>日 夜9:30~</p> <p>主日礼拝取材番組 全地よ主をほめたたえよ</p> <p>【第1】日キ教会 高知旭教会</p> <p>【第2】日基教団 小岩教会</p> <p>【第3】ホーリネス 東京中央教会</p> <p>【第4】日基教団 石動教会</p> <p>【第5】日基教団 久万教会</p>	<p>月 夜9:48~</p> <p>聴く信仰 「いのちをいただく」御言葉黙想</p> <p>山内十束 カトリック・御受難修道会、宝塚黙想の家司祭</p>	<p>火 夜9:47~</p> <p>いつも、そしてともに —マタイによる福音書—(再)</p> <p>井幡清志 日基教団 石動教会牧師</p>	<p>水 夜9:47~</p> <p>暗闇の中の光 —ヨハネによる福音書—(再)</p> <p>藤盛勇紀 日基教団 富士見河教会 主任牧師</p>	<p>木 夜9:47~</p> <p>罪人の頭たちの聖書のことはば</p> <p>石垣弘毅 日基教団中継津伝道所牧師</p>	<p>金 【第1】夜9:37~</p> <p>Echo of Voices</p> <p>夜9:47~ 私の救い、私たちの希望 —宮城石巻読書の集い—</p> <p>川上直哉 日基教団 石巻栄光教会牧師</p>	<p>土 夜9:30~</p> <p>一期一会のみことば</p> <p>加藤智 カトリック、さいたま教区司祭</p>	<p>夜9:53~</p> <p>Kishikoのひとりじゃないうちから ゴスペルシンガー</p>	<p>【第1~3】 夜10:04~</p> <p>コーヒー・ブレイク・インタビュ—</p>	<p>夜10:14~</p> <p>テゼ・みころの歌 植松功 敬愛と祈りの集い 聖公会世話人</p>	<p>夜10:14~</p> <p>聖書を開こう 山下正雄 RCJメディア・ミニストリー代表</p>	<p>夜10:14~</p> <p>石巻J-CCM ステーション 伊藤治哉 ルーテル同盟 石巻希望の家牧師</p>	<p>夜10:28~</p> <p>御足の跡を 小池与之祐 日基教団神の愛 キリスト伝道所牧師</p>	<p>夜10:27~</p> <p>主に向かって歌おう(再) 飯 靖子 日基教団聖南坂教会 聖歌隊指揮者・オルガニスト</p>	<p>【第2】夜9:37~</p> <p>ボンヘツア—の 説教に聴く(再) 村上伸 日基教団元牧師</p>	<p>【第3・4】夜9:37~</p> <p>生きるとは、キリスト 小林和夫 ホーリネス 東京聖書学院教会牧師</p>	<p>夜10:28~</p> <p>旅の音、心の音 【第1・3・5】 夜10:28~</p>	<p>夜10:28~</p> <p>聖書を開こう 山下正雄 RCJメディア・ミニストリー代表</p>	<p>夜10:32~</p> <p>トライアール! 聖書朗読</p>	<p>夜10:33~</p> <p>御心の響き 服部みぎわ</p>	<p>夜10:22~</p> <p>Meguro CCM insight! Genuine Graceがーカル</p>
---	--	---	--	---	---	---	--	--	---	---	--	--	---	---	--	---	---	---	--	--

諸所の企画案内



真命山 霊性交流センター
ノートルダム・ド・ヴィ
サダナ瞑想
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。

テーマ 聖性への招き

召し出してくださった聖なる方に倣って、あなたがた自身も
生活のすべての面で聖なるものとなりなさい（1ペトロ1，15）

毎月第2木曜日（10:00～15:00）
予約は前日の16:00まで

- 1月12日 励まし、寄り添ってくださる諸聖人（コデノッティ・クラウディオ神父）
- 2月 9日 福者高山右近と日本の殉教者（コデノッティ・クラウディオ神父）
- 3月 9日 十字架の聖パウロ（ソットコルノラ・フランコ神父）
- 4月13日 マグダラの聖マリア（Sr. マリア・デ・ジョルジ）
- 5月11日 聖シャルル・ド・フーコー（コデノッティ・クラウディオ神父）
- 6月 8日 三位一体の聖エリザベト（ソットコルノラ・フランコ神父）
- 7月10日 聖マクシミリアノ・マリア・コルベ（園田善昭神父）
- 8月 休み
- 9月14日 コルカタの聖テレサ（Sr. マリア・デ・ジョルジ）
- 10月12日 幼きイエスの聖テレーズ（コデノッティ・クラウディオ神父）
- 11月 9日 聖ガイド・マリア・コンフォルティ（コデノッティ・クラウディオ神父）
- 12月14日 聖フランシスコ・ザビエル（コデノッティ・クラウディオ神父）



・個人またはグループでの黙想会
研修会も歓迎いたします（要予約）

申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com

Tel:0968-85-3100

Fax:0968-85-3186

講話と祈りのつどい

コロナウイルス感染の広がりにより、
予定しておりました「講話と祈りの集い」の開催を
現在保留にしております。

状況の推移を見守りながら開催の有無を
当会のHPに掲載いたしますので、
そちらをご覧くださいいただければ幸いです。

担当 中山真里

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.co

サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

プログラムの詳細、開催状況、補充情報などはホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jp/>

申込み受付・・開始日の8日前まで

コース	日時	指導	開催場所	申込み
サダナⅡ	11/22(水)17:30- 26日(日)16:00	同上	都内施設 (受付にお問合せください)	来間(くるま) 裕美子※ Tel: 090-5325-2518 sadhana12378@ yahoo.co.jp
広島サダナⅠ	2024年1/6(土)9:00- 8日(月・祝)16:00 ※通いも可能です	Fr. 植栗 Fr. アレックス	西日本霊性センター (広島市麻安佐南区)	西日本霊性センター 受付デスク Tel: 082-239-0034
フォローアップ	1/21(日) 9:30-17:00	Fr. 植栗	シャルトル 聖パウロ修道女会 九段修道院	来間(くるま) 裕美子※
名古屋 サダナⅡ	【前半】 1/27(土)-28(日) 【後半】 2/3(土)-4(日) 9:30-18:00 前半および後半に参加 可能な方のみお申込み 可能です。	同上	聖霊会八事修道院 ミッションセンター (名古屋市昭和区)	攪上(かくあげ) 暁子 Tel: 050-7108-7410 ngosdn@gmail.com
サダナⅠ	2/9(金)17:30- 12(月・祝)16:00	同上	汚れなきマリア修道 会・町田黙想の家	来間(くるま) 裕美子※
サダナⅡ	2/21(水)17:30- 25(日)16:00	同上	同上	同上

※申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合

は090-5325-2518(来間)までお問い合わせください。

※不在の場合は、渡辺由子/Tel&Fax: 042-325-7554

●フォローアップおよびリピーターへの参加…サダナⅠを終えていること。

●入門Cへの参加…入門Aまたは入門Bを終えていること。



祈りの集い

～沈黙の内に神を求めて～

今年は記録的な猛暑が続いておりますが、お元気でお過ごしでしょうか。コロナ感染のため、2020年から休止しておりました「祈りの集い」を再開することにいたしました。

集いの前半では、「祈りについての講話」をいたします。

いままで、アビラの聖テレジアや十字架の聖ヨハネ、モーリス・ズンデルや聖書などをテキストとして使用してまいりましたが、今回は、ウィリアム・ジョンストン神父の著作『愛と英知の道 ――すべての人のための霊性神学』（2017年、サンパウロ社）を少しずつ読みながら、祈りについての理解を深めて行きたいと思います。

後半では、すべての存在を支えておられる神の前にありのままの自分を置き、神の声に静かに耳を傾けて行きましょう。

場所：イグナチオ教会岐部ホール 404号室

（JR・地下鉄丸ノ内線・南北線四ツ谷駅徒歩1分）

時間：以下の木曜日、13:00～15:00

11月9日（木）

2024年1月11日（木）

3月14日（木）

主催：慈しみ深き会

指導：九里^{くのり} 彰神父（カルメル修道会）

* 参加費無料（献金歓迎）

* 問い合わせ先：042-473-6287 篠原（11:00～20:00）



朝日カルチャーセンターの 通信深読「聖書に親しむ」へのご案内

「通信深読」は、「聖書深読黙想会」にさまざまな理由で参加できない方々のために考案されました。参加を希望される方は、下記の朝日カルチャーセンター通信講座課へお申し込みください。手続きがすめば、次のような手順でこの「通信深読」が行われてゆきます。

ファースト・ステップ

「個人素読」：毎月、朝日カルチャーセンターから指定された聖書深読箇所を、ひとりで繰り返し読み、み言葉を自由に黙想します。

セカンド・ステップ

「個人素読」の報告書作成：送られてきた用紙（B5用紙）に、深読箇所特に印象に残った節を二三ヶ所選び、番号と○や△や×などの記号を記し、「全」には、全体の印象を表す、ご自分の体験と結びついた具体的な名詞を、「照」にはみ言葉を実践する決意を示す動詞を書き込みます。さらに「所感」や「近況報告・質問」の欄に、ご自由に自分の考えや質問等を記入します。

サード・ステップ

（参加者から朝日カルチャーセンターへ送られた「個人素読」の報告書は、参加者全員のもものがまとめられ、講師へ送られます。）

講師が各参加者の「個人素読」の報告書に対しコメントし、深読箇所の「解説」（A4 2枚）と共に、朝日カルチャーセンターへ送り返します。

フォース・ステップ

コメントされた全員の「個人素読」の報告書（「近況報告・質問」はプライベートなこともあるので、削除されます）と「総合素読表」、そして講師の「解説」が冊子となり、各参加者に、センターから送られます。

* 費用：6ヶ月（20,360円）。納入は4月、7月、10月、1月。継続の場合19,130円。

* 講師：九里彰師（奇数月）、今泉健師（偶数月）

* 問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座課

Tel: 03-3344-2527（直通）

『靈性センターニュース』

* 郵送終了のお知らせ *

『カルメル靈性センターニュース』はWeb掲載移行に伴い、
2023年12月号も以て、冊子の発行を終了致します。

これまで月刊誌として郵送を行って参りましたが、今後は
Webにてご覧下さいます様、お願い致します。

宇治カルメル会修道院ホームページ

<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

「カルメル靈性センターニュース」(PDF)をクリック
過去のバックナンバーも揃って掲載しております。
どうぞご利用下さい。

また引き続きご献金もお願いしております。

郵便番号口座： 00910-6-333184
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457
reisei@carmel-monastery.jp

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

靈性センターニュース掲載の情報も載っています

